



長崎高教組

定通部だより

2013年1月15日

第4号

発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>

メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

日高教定通部中国・九州・四国ブロック 2012年学習交流集会

2012年11月10日(土)～11日(日)岡山いこいの村



(1) 各県交流「高校生の修学保証」

山口

「2012年度定時制・通信制高校の教育条件および勤務条件改善に関する要求書」を提出し、定通部県教委交渉を行った。(主な内容は以下のとおり)

①「だれもが、いつでも、どこでも」学べる定時制の原点を損なう統廃合は行わないこと。

(県教委)平成17年度9月に策定した再編計画にもとづいて実施。多部制課程の設置を検討。

②卒業時の進路および在学生との就労について、関係機関と連携してその保障・確保に努めること。

(県教委)企業との連携を強化する。

③定時制の学級定員を20人以下にして、学級数と教職員定数を増やすこと。

(県教委)難しい。

④すべての定時制および通信制高校に専任・正規の養護教諭を配置すること。

(県教委)平成15年度から非常勤を配置。すべての学校に正規の養護教諭を配置することは困難であるが、各学校の実情を踏まえて対応したい。

⑤高校在籍期間が48月を超える生徒の授業料を不徴収とし、すべての定時制・通信制生徒の授業料を無償化すること。

(県教委)教育費負担の公平性の観点から通常修業年限を超えたら徴収する。病気や家庭の事情等があれば考慮する。

⑥通信制のスクーリング会場までの交通費について、柳井および下関までの往復の高速料金を出すこと。

(県教委)スクーリング予算は前年度を参考に。前向きに検討する。

⑦県費負担で各教室にエアコンを設置すること。当面、網戸を設置すること。

(県教委)耐震工事、支援学校等の整備に優先的に取り組んでいる。

日高教定通部 中国・九州・四国 学習交流集会 本県参加者

濱本功二 (大村定)

烏山隆弘 (鳴滝夜)

江頭清隆 (佐工定)

山口和晃 (佐工定)





大荒れの瀬戸内海

島根

- ・宍道高校(多部制・3部制)が開校。
→カラーが強い。分校が2つ閉校になった。
- ・就職ができないので、3年卒を4年卒に途中から変える生徒が出てきた。
- ・特別支援学校の高等部との併願をする生徒がいる。

岡山

- ・発達障害の生徒なのか、しつけの範囲なのか判断しにくい生徒が多い。小規模校が多いので、人事異動で職員が入れ替わると学校体制がガラッと変わる。
- ・全日制との併設校で「定時制の生徒入るべからず」という張り紙を貼られた。

長崎

- ・佐世保工業定時制は、応募者が2年連続10人未満だった。これは基本的には募集停止の基準。
→職員会議で話し合ったが、「是非残して欲しい」という意見は少なかった。

佐賀

- ・平成19年度から50分授業。
- ・仮卒後の自宅学習の日を授業日数に入れているか?
- ・高卒程度認定試験を単位認定しているか?

岡山・佐賀 (通信制の協力校の授業について)

- ・協力校はあるが、教師が出かけて行って授業をしている。



講演 福島捷美氏

(2) 講演

講演「鹿久居島原発反対運動の歴史」

講師 社民党岡山県連合代表 福島捷美氏

(3) 鹿久居島見学

数十年前、岡山県にも原発を作る計画があったが、住民に運動で計画を廃止したというすばらしい歴史があった。その建設予定地の島を船で見学することになった。船が出港する日生港へ向かう途中、入江にかかる橋を渡ったとき、橋に設置されている風速計は11メートルを表示していた。港について車を降りたとき、風雨は非常に強かったが、私自身「瀬戸内海は内海だから」というくらいで、海を嘗めていたところが確かにあった。

風雨は非常に強かったが、船(遊覧船)は出港した。港を出てしばらくはそれほどでもなかったが、鹿久居島の南西海域から波が高くなってきた。誰かが「ジェットコースターみたいですね。」と冗談を言っていたが、だんだん誰も口を開かなくなってきた。南東海域にきた頃には、波は3メートルを超えていたのではないかと思われる。ちょうどその辺りが、原発建設予定地の沖合だったが、大荒れの海では、ガイドの方の説明もなかった。乗船した人は、皆無口になり、おそらく身の危険を感じたのではなかったのか、と思うくらいの悪天候だった。島の北側に差し掛かったときは、ようやく波は低

くなり、みなさん安堵したと思う。しかし、狭い水道(瀬戸)を通過しているときに、急に「ガガガッ」という音と衝撃があり、危うく座礁しそうになった(2回も)。港に着いたときには、みなさん緊張感から解放されたのか、ほとんどが無口で船を下り、解散した。(濱本)

(4) 参加者の感想

最後にとてもスリリングな経験をしたが、風光明媚な場所での学習交流集会は、心身ともにリフレッシュすることができました。普段交流が少ない中国地方、四国地方の教職員の方と交流することは、知識だけではなくその土地その土地の風土、文化、そしてそこで生活している人たちの人柄などに接し、感じる事ができ、とてもすばらしい時間を過ごしました。来年は佐賀県で開催されます。たくさんの方が参加していただければと思います。(濱本功二・大村定)

学習交流集会では、各校が抱える問題点や課題、各県の取り組み状況等を出し合い、情報交換しながら学習し、交流を深めました。主なテーマは、授業料と学校徴収金、多部制、給食、授業時間、発達障害、進路保障、学校統廃合、高認試験の単位認定等です。状況に合わせて工夫された各校の取り組みを聞き、大変勉強になりました。また、各県が共通して直面する問題については、連帯して活動を進める必要性を強く感じました。(烏山隆弘・鳴滝夜)